

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-537282(P2004-537282A)

【公表日】平成16年12月16日(2004.12.16)

【年通号数】公開・登録公報2004-049

【出願番号】特願2002-575022(P2002-575022)

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 49/00

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/47

C 1 2 M 1/00

C 1 2 M 1/34

C 1 2 Q 1/68

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 49/00 A

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/47

C 1 2 M 1/00 A

C 1 2 M 1/34 Z

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 15/00 F

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

脳腫瘍タンパク質標的(T_{BT})遺伝子又は遺伝子産物の活性を調整する生物学的活性薬剤を開発するための方法であって、

候補の生物学的活性薬剤を、

(a) 配列番号：1、3、5、もしくは7～16に示された配列のうちのいずれか一つによってコードされたポリペプチド；

(b) 配列番号：1、3、5、もしくは7～16に示された配列のうちのいずれか一つによってコードされたポリペプチドをコードし発現する核酸を含む細胞；又は

(c) (i) 表1に示された配列のうちのいずれか一つに対応する遺伝子のノックアウト；

(ii) 配列番号：1、3、5、もしくは7～16に示された配列のうちのいずれか一つを含む外因性の安定的に伝達された哺乳動物遺伝子配列のうちの一つを含む脳腫瘍遺伝子機能に関する非ヒトトランスジェニック動物モデル

のうちのいずれか一つと組み合わせること；並びに

脳腫瘍により誘導された分子及び細胞の変化に対する該薬剤の効果を決定することを含む

、方法。

【請求項 2】

生物学的活性薬剤が、発現を下方制御又は上方制御するものである、請求項1記載の方法。

【請求項 3】

生物学的活性薬剤が、ポリペプチドの活性を阻害するか又は増加させるものである、請求項1記載の方法。

【請求項 4】

表1に示された配列のうちのいずれか一つの発現の上方制御又は下方制御を決定することを含む、脳腫瘍の診断又は病期決定のための方法。

【請求項 5】

脳腫瘍が星状細胞腫である、請求項4記載の方法。

【請求項 6】

星状細胞腫が神経膠芽腫である、請求項5記載の方法。

【請求項 7】

脳腫瘍細胞内の mRNA 又はポリペプチドの量の増加又は減少を検出することを含む、請求項4記載の方法。

【請求項 8】

配列番号：1、3、5、又は7～16に示された配列を含む核酸を2個またはそれ以上含む核酸のアレイ。

【請求項 9】

イメージング部分と結合している、配列番号：1、3、5、又は7～16に示された配列によりコードされたタンパク質と特異的に結合する化合物を、有効量、患者へ投与すること；及び

化合物のイメージング部分を可視化することを含む、脳腫瘍を画像化する方法。

【請求項 10】

化合物がクモ膜下腔内投与によって投与される、請求項9の方法。

【請求項 11】

化合物が血管内投与によって投与される、請求項9の方法。

【請求項 12】

脳腫瘍が星状細胞腫である、請求項9の方法。

【請求項 13】

星状細胞腫が神経膠芽腫である、請求項12の方法。

【請求項 14】

化合物が抗体又は抗体断片である、請求項9の方法。

【請求項 15】

イメージング部分が、放射性部分、陽電子放射部分、光学的に可視の色素、光学的に可視の粒子、及び磁気スピンコントラスト部分からなる群より選択される、請求項9の方法。

【請求項 16】

1個またはそれ以上の細胞毒性部分と結合している、配列番号：1、3、5、又は7～16に示された配列によりコードされたタンパク質と特異的に結合する化合物を、治療的な量、投与することを含む、脳腫瘍を処置する方法。

【請求項 17】

化合物がクモ膜下腔内投与によって投与される、請求項16の方法。

【請求項 18】

化合物が血管内投与によって投与される、請求項16の方法。

【請求項 19】

脳腫瘍が星状細胞腫である、請求項16の方法。

【請求項 20】

星状細胞腫が神経膠芽腫である、請求項19の方法。

【請求項 2 1】

化合物が抗体又は抗体断片である、請求項16の方法。

【請求項 2 2】

細胞毒性部分が、放射性部分、化学毒性部分、及び毒素タンパク質部分からなる群より選択される、請求項16の方法。

【請求項 2 3】

PTP-γ SM1又はSM2スプライスバリエントをコードする単離された核酸。

【請求項 2 4】

PTP-γ がヒトのものである、請求項23記載の核酸。

【請求項 2 5】

配列番号：3又は配列番号：5に示された核酸配列を有する、請求項23記載の核酸。

【請求項 2 6】

請求項23の核酸によりコードされたポリペプチド。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 5】

検出可能に標識されたT_{B-T}特異的抗体は、標的の発現を分析するため、イメージング技術と共に使用される。一つの態様において、イメージング法は、放射性核種が合成的又は局所的に患者に投与されるイメージング技術であるPET又はSPECTのうちの一つである。その後の放射性トレーサの取り込みが経時的に測定され、標的とされた組織に関する情報を得るために使用される。使用された特定の同位体の高エネルギー（γ線）放射、並びにそれらを検出するために使用された装置の感度及び精度のため、放射能の二次元分布が体外から推量される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 6】

PETにおいて最も一般的に使用されている陽子放射核種には、¹¹C、¹³N、¹⁵O、及び¹⁸Fが含まれる。SPECTにおいては、電子捕捉及び/又はγ放射により崩壊する同位体を使用されており、それには¹²³I及び^{99m}Tcが含まれる。